

令和 7 年度いばらき県央地域連携中枢都市圏ビジョンの 取組状況について

I 地域経済の活性化（圏域全体の経済成長のけん引）

① 事業者の経営力強化事業

（令和 7 年度決算額 54,573 千円、令和 8 年度予算額 56,887 千円）

○ 令和 7 年度実績

令和 4 年度に拡充した産業活性化コーディネーターの配置（従来の配置に加え、水戸市、笠間市・城里町、小美玉市・茨城町・大洗町にそれぞれ 1 名配置）により、国・県・市町村補助制度の活用や企業間マッチング、人材確保、経営相談などに関する事業者支援を実施した。

○ 令和 8 年度以降の計画

現状の配置体制を維持し、事業者支援を実施する。

○ 連携による取組の成果

市町村を越えたビジネスマッチングの創出等、県央地域全体の産業活性化が期待できる。

② 先進的農業実践人材の育成事業

（令和 7 年度決算額 455 千円、令和 8 年度予算額 500 千円）

(1) ドローンを活用した水稻直播実証実験

○ 令和 7 年度実績

- ・ ひたちなか市、城里町、東海村の実証ほ場において、ドローンにて飼料用米の種子「夢あおば」を播種し、その後ドローン等により、除草剤散布を 2 回、追肥を 1 回、防除を 1 回実施した。
- ・ 各実証ほ場において、ドローン播種の見学会を開催した。

参加者数：ひたちなか市 22 名、城里町 27 名、東海村 26 名

- ・ 水戸市の HP に実証実験の概要・経過を随時掲載した。
- ・ 稲の収穫後に収量を算出し、実証結果を確認した。今年度実施した 3 市町村のいずれにおいても、飼料用米の標準単収を上回り、収量は概ね良好であった。

○ 令和 8 年度以降の計画

- ・ 那珂市、小美玉市、大洗町の 3 市町で同様の取組を実施する。
- ・ 水戸市の HP で実証実験の概要・経過を周知し、農業者のスマート農業に対する関心を高める。

○ 連携による取組の成果

地域農業者へのスマート農業の普及につながった。



③ 地場産品の販路拡大とブランディング事業

(令和 7 年度決算額 987 千円、令和 8 年度予算額 4,000 千円)

(1) 地場産品 P R カタログの配布

○ 令和 7 年度実績

地場産品 P R カタログを、圏域内のスーパーのバイヤー、飲食店等に配布した（配布部数：累計 5,000 冊）。

○ 令和 8 年度以降の計画

P R カタログの効果的な活用方法を検討し、地場産品の販路拡大を推進していく。

○ 連携による取組の成果

圏域の特産品の認知度向上につながった。

(2) 地場産品の産業祭等への出店

○ 令和 7 年度実績

- ・ 各市町村において自らの産業祭等へ出店し、P R を行った。
- ・ イオンモール水戸内原で「いばらき県央特産品フェア 2026」を開催した。

○ 令和 8 年度以降の計画

- ・ 産業祭等に出店する。
- ・ 5 月 2 日開催の「水戸まちなかフェスティバル」に出店する。

○ 連携による取組の成果

地場産品の認知度や販路の拡大、地産地消の推進が期待できる。

(3) 地場産品を使った新メニューの提供促進

○ 令和 7 年度実績

- ・ 水戸京成ホテルと連携し、4 月から 11 月まで地場産品を使った新メニューの提供を行った。
- ・ 水戸市の洋菓子店「C I N A R I S（シナリス）」と連携し、5 月から 9 月まで地場産品を使った新メニューの提供を行った。

メニュー提供数：水戸京成ホテル 14 品目、C I N A R I S（シナリス）9 品目

○ 令和 8 年度以降の計画

- ・ 4 月から 11 月の期間、水戸京成ホテルにおいて新メニューを提供予定
- ・ 地場産品を使用した新メニューの提供促進に向け、協力事業者の掘り起こし、調整を行う。

○ 連携による取組の成果

地域ブランドの育成や販路拡大が期待できる。

(4) ほしいもブランディングに係る取組

○ 令和 7 年度実績

- ・ 「いばらき県央特産品フェア 2026」にて、ほしいもの販売及び P R を行った。
- ・ 茨城県産地振興課やほしいも協議会とそれぞれの取組状況について、情報共有を図った。

○ 令和 8 年度以降の計画

県のブランディングの取組状況等を踏まえ、事業のあり方を検討する。

④ 戦略的観光プロモーション事業

（令和 7 年度決算額 10,000 千円、令和 8 年度予算額 10,000 千円）

(1) 情報発信ツールの活用

○ 令和 7 年度実績

- ・ 協議会公式 Instagram（以下「公式 Instagram」という。）において、ユーザーの投稿を紹介する U G C 方式を活用し、メインターゲット（首都圏在住 20～30 歳代女性）を意識した週 3 回の定期投稿を実施した。あわせて、Instagram のリール機能を活用した動画コンテンツを新たに制作・公開した。
- ・ 協議会公式ホームページ（以下「公式ホームページ」という。）において、「自転車で巡る旅」等の既存コンテンツを最新の情報へ更新するとともに、圏域内の観光情報を定期的に発信した。

区分	令和 7 年度	令和 6 年度
公式 Instagram フォロワー数	6,759 人	4,073 人
公式ホームページアクセスユーザー数	約 14,000 件	約 11,000 件

※公式 Instagram フォロワー数は 3 月末現在、公式ホームページアクセスユーザー数は 4 月～翌年 3 月末の合計です。

○ 令和 8 年度以降の計画

ガイドブックや公式ホームページ、公式 Instagram において、ターゲットに合わせた観光情報の発信に取り組む。特に、公式 Instagram において、民間のノウハウを活用し、県央地域ならではの多彩な観光情報の発信に努める。

○ 連携による取組の成果

公式 Instagram のフォロワー数及び公式ホームページの閲覧数が昨年度と比較し、それぞれ増加していることから、県央地域の魅力発信と認知度向上につなげることができた。

(2) メディアを活用したプロモーション

○ 令和 8 年度以降の計画

県央地域への誘客、認知度向上に資する観光協議会事業を効果的に発信するため、様々な手法によるプロモーションを行う。

(3) 観光キャンペーン実施

○ 令和 8 年度以降の計画

県央地域の観光地としての認知度向上及び観光協議会事業を広く P R するため、観光キャンペーンを実施する。

(4) 宿泊予約サイト（OTA）の活用

○ 令和 7 年度実績

宿泊予約サイト（じゃらん net）内に特集ページを掲載し、宿泊割引クーポン（500 円）の配布（配布数：約 1,000 枚）やホームページ・SNS 等と連動した情報発信により、宿泊を伴う誘客促進を図った。

○ 令和 8 年度以降の計画

県央地域への来訪意欲を高め、魅力や認知度の向上につなげるとともに、誘客の増加を図るため、宿泊予約サイトに特集ページを掲載し、ホームページや SNS 等と連動したプロモーションを展開する。

○ 連携による取組の成果

特集ページの掲載により、県央地域の魅力発信とともに、宿泊を伴う誘客促進につなげることができた。

(5) 観光マーケティング調査の実施

○ 令和7年度実績

「動態調査（位置情報分析）」や「WEB調査（ニーズ分析）」を実施し、各市町村における来訪者の動態等の分析を行った。

① 動態調査

調査期間：令和6年10月～12月の間に圏域を訪れた来訪者の動態

サンプル数：17,000人

② WEB調査

調査期間：令和7年10月～12月末

サンプル数：1,000人

○ 令和8年度以降の計画

人流解析サービス「おでかけウォッチャー」を活用した調査を継続する。

○ 連携による取組の成果

動態調査及びWEB調査により、県央地域への来訪者の属性や意識、周遊実態を把握することができた。また、次期ビジョンの策定等に向けた基礎資料（エビデンス）を得ることができた。

⑤ 誘客と観光消費促進事業

（令和7年度決算額 10,000千円、令和8年度予算額 10,000千円）

(1) 圏域内の周遊促進

○ 令和8年度以降の計画

誘客と周遊の促進を図るため、県央地域の特色を生かしたイベントを実施する。

(2) 物産イベントへの出展

○ 令和7年度実績

- ・ 茨城県主催の「茨城をたべよう収穫祭」（東京都世田谷区）へ出展し、県央地域の観光資源等のPRとともに、『発酵食品』をテーマに特産品の販売を行った。

期間：10月4日（土）・5日（日）

場所：駒沢オリンピック公園（東京都世田谷区）

来場者数：約58,000人

- ・ 県産品アンテナショップ「IBARAKI sense」（東京都中央区）において、『発酵食品』をテーマに店内に特設ブースを設置し、県央地域の認知度向上とあわせ、特産品を販売した。

期間：12月13日（土）・14日（日）
 場所：IBARAKI sense（東京都中央区）
 来店者数：約4,500人

○ 令和8年度以降の計画

県央地域の特産品等のPRや認知度向上を図ることを目的とした物産イベントを実施する。

○ 連携による取組の成果

各会場での取組により、県央地域の特産品の魅力発信と認知度向上につなげることができた。

(3) 体験プログラムの充実

○ 令和7年度実績

県央地域ならではの食資源や体験を取り入れたキャンプイベント「あす旅キャンプフェス」を実施し、9市町村の特産品や体験プログラム等のPRとあわせて、観光消費の促進を図った。また、民間の集客イベント「HAERUマーケット」との同時開催により、更なる誘客促進を図った。

期間：10月18日（土）・19日（日） 各日10:00～15:00
 場所：涸沼自然公園キャンプ場
 来場者数：約4,600人（延べ）／うち宿泊者 198人

○ 令和8年度以降の計画

県央地域ならではの体験の発掘及び磨き上げに取り組みながら、体験を取り入れたイベント等を行う。

○ 連携による取組の成果

本イベントにより、県央地域の魅力発信とともに、宿泊を伴う誘客促進につなげることができた。

※ ビジョンにおける「I 地域経済の活性化」の成果指標

		ビジョン策定時点の直近の値	2025(R7)年度末時点の直近の値	目標値
総生産	時点(年度)	2018(H30)	2023(R5)	2026(R8)
	値(百万円)	3,378,567	3,626,185	3,739,000
事業所の従事者数	時点(年)	2016(H28)	2021(R3)	2026(R8)
	値(人)	320,670	336,810	322,200
産業活性化コーディネーターが支援した企業等の支援件数	時点(年度)	2020(R2)	2025(R7)	2026(R8)
	値(件)	570	683	720
新規就農者数(45歳未満の者に限る。)	時点(年度)	2019(R1)	2024(R6)	2026(R8)
	値(人)	52	54	70
観光交流人口(観光入込客数)	時点(年)	2020(R2)	2024(R6)	2026(R8)
	値(人)	11,027,200	17,859,400	20,020,000

Ⅱ 都市機能の向上（高次の都市機能の集積・強化）

⑥ 周産期医療提供体制の維持・確保事業

（令和 7 年度決算額 20,000 千円、令和 8 年度予算額 20,000 千円）

○ 令和 7 年度実績

高度な周産期医療を安定的に提供できる体制の整備に向け、地域周産期母子医療センターの役割を担う水戸赤十字病院に対し、産婦人科医確保のための経費について財政支援を行った。

○ 令和 8 年度以降の計画

水戸赤十字病院に対し、産婦人科医確保のための経費について財政支援を行う。

○ 連携による取組の成果

補助金を活用し、指導医（昭和大学から派遣）を継続的に雇用することで、安定した周産期医療体制の確保につながる。

⑦ 医師確保事業

（令和 7 年度決算額 30,000 千円、令和 8 年度予算額 20,000 千円）

○ 令和 7 年度実績

既存産婦人科医療機関に対して、施設改修事業に係る支援を行った。

○ 令和 8 年度以降の計画

医療機関開設等補助金の周知を図るとともに、利用促進に努める。

○ 連携による取組の成果

受療環境の向上や将来にわたる医療提供体制の維持につながる。

⑧ 広域的公共交通ネットワーク構築事業

（令和 7 年度決算額 330 千円、令和 8 年度予算額 200 千円）

(1) 検討会議の開催

○ 令和 7 年度実績

全体会議の開催 1 回

○ 令和 8 年度以降の計画

全体会議、分科会及び担当者間協議の開催

○ 連携による取組の成果

県央地域における広域公共交通ネットワークの構築に向け、市町村間の連携強化及び方向性の共有に寄与した。

(2) MaaS との連携や新たな技術を活用した公共交通の導入

○ 令和 7 年度実績

- ・ JR 水戸支社が展開する MaaS「ひたちのくに紀行」と連携し、水戸市及び構成 3 市町（笠間市、ひたちなか市及び大洗町）で利用可能な公共交通機関や観光施設等の電子チケットを販売した。
- ・ ひたちのくに紀行の利用促進を図るため、JR 水戸支社と 9 市町村が連携したデジタルスタンプラリーを継続実施した。
- ・ 先進的な技術を交通分野で活用している地域への視察として、境町の自動運転バスの視察を実施した。

○ 令和 8 年度以降の計画

- ・ JR 水戸支社と 9 市町村で連携して事業を実施する。
- ・ 先進的な技術を交通分野で活用している地域への視察を実施する。

○ 連携による取組の成果

圏域内の広域的公共交通サービスの魅力を高め、公共交通ネットワークの強化に寄与した。

⑨ 広域的公共交通の利用促進事業

（令和 7 年度決算額 202 千円、令和 8 年度予算額 330 千円）

○ 令和 7 年度実績

エコ通勤チャレンジウィークを、6 月及び 12 月にそれぞれ 7 日間実施した。

○ 令和 8 年度以降の計画

エコ通勤チャレンジウィークの実施（年 2 回予定）

○ 連携による取組の成果

- ・ 第 1 回取組者数 3,841 人、CO2 排出削減量 1,103.5kg
- ・ 第 2 回取組者数 3,803 人、CO2 排出削減量 1,093.5kg

⑩ 大学との連携推進事業

（令和 7 年度決算額 96 千円、令和 8 年度予算額 250 千円）

(1) 若い世代のまちづくり調査・研究事業

○ 令和7年度実績

令和6年度に続き、圏域に所在する高校及び大学の生徒・学生に対するアンケートを実施するとともに、アンケート結果について、茨城大学及び常磐大学の担当教員に簡易的な分析を依頼し、報告を受けた。

回答数：高校生：6,795件、大学生：327件

○ 令和8年度以降の計画

令和8年度まで毎年、高校生及び大学生に対するアンケート調査を実施し、分析結果の報告を受ける。

○ 連携による取組の成果

今後、取得した回答データを分析することにより、若い世代の考え方や傾向を明らかにし、各市町村における定住・Uターン促進策につなげていくことができる。

(2) 連携促進事業

○ 令和7年度実績

事業内容の検討を行った。

○ 令和8年度以降の計画

若い世代のまちづくり調査・研究事業の進捗状況を踏まえながら、構成市町村担当者と各大学の地域連携担当者との意見交換を実施する。

⑪ ICTによるまちづくり推進事業

(令和7年度決算額 5,525千円、令和8年度予算額 10,200千円)

(1) 職員人材育成研修会

○ 令和7年度実績

SNS・ネットトラブル等に係る最新の事例から市町村職員として知っておくべき知識等を習得するデジタル社会における自治体リスクマネジメント研修を実施した。

実施日：3月16日（月）、参加者数：9市町村11人

○ 令和8年度以降の計画

職員のICTにかかる知識・スキルの向上に向けた研修会等を年1回程度開催していく。

○ 連携による取組の成果

市町村職員がICTに係る先端技術や知識を学ぶことで、地域のデジタル化の更なる推進につながる。

(2) ICT を活用した住民サービスの向上

○ 令和 7 年度実績

県央地域の魅力向上・周遊性の強化を図るため、水戸市で運用していた A I を活用したイベント情報集約サイトを広域化し、「いばらき県央地域イベント情報集約サイト」として運用した。

○ 令和 8 年度以降の計画

市町村で連携してイベント情報集約サイトの運用を図るほか、住民サービス向上に資する事業を検討していく。



○ 連携による取組の成果

広域的なイベント情報が一元化されたことにより、市民や観光客の利便性が高まった。

※ ビジョンにおける「Ⅱ 都市機能の向上」の成果指標

		ビジョン策定時点の直近の値	2025(R8)年度末時点の直近の値	目標値
総合周産期母子医療センター及び地域周産期母子医療センター数	時点(年度)	2021(R3)	2025(R7)	2026(R8)
	値(箇所)	2	2	2
医師数	時点(年)	2018(H30)	2024(R6)	2026(R8)
	値(人)	1,385	1,497	1,470
広域的公共交通ネットワーク等に係る社会実験の取組件数(累計)	時点(年度)	2021(R3)	2025(R7)	2026(R8)
	値(件)	－	1	2
大学と連携した調査・研究の取組件数(累計)	時点(年度)	2021(R3)	2025(R7)	2026(R8)
	値(件)	－	1	2
ICTを活用した社会実験の取組件数(累計)	時点(年度)	2021(R3)	2025(R7)	2026(R8)
	値(件)	－	1	2

Ⅲ 生活環境の充実（圏域全体の生活関連機能サービスの向上）

⑫ 救急医療情報等発信事業

（令和 7 年度決算額 104 千円、令和 8 年度予算額 180 千円）

(1) 小児医療セミナーの開催

○ 令和 7 年度実績

未就学児の保護者を対象に、こどもの急な病気やケガへの対応方法のほか、新興・再興感染症について学ぶことのできるセミナーを開催した。また、同セミナーの内容については、当日参加できなかった保護者も視聴できるよう、後日、インターネット上で動画を配信した。

期日：11 月 22 日（土）

場所：ヘルス・ケア・センター（ひたちなか市）10：00～11：30

ゆっくら健康館（大洗町）13：30～15：00

参加者数：18 組 39 人（うち大人 25 人）

○ 令和 8 年度以降の計画

各市町村を会場として健康セミナーを開催する。

○ 連携による取組の成果

こどもの病気やケガに対する保護者の不安を解消するとともに、かかりつけ医の普及や適正受診につながる。

(2) 適正受診等の周知

○ 令和 7 年度実績

休日・夜間の不要・不急な受診や救急車の適正利用などの適正受診のほか、かかりつけ医を持つことの利点などについて、市町村広報紙や茨城県救急電話相談の広報ポスター等で周知した。また、茨城県が新たに取り組んでいる、救急搬送時における選定療養費の取扱いについても、あわせて周知した。

○ 令和 8 年度以降の計画

医療機関や救急車の適正な利用を促すため、情報発信を行う。

○ 連携による取組の成果

住民一人一人が、地域における医療機関の役割分担等について理解し、適正受診やかかりつけ医が普及することで、限られた医療資源を有効に活用した、安定的な医療提供体制の維持・確保につながる。

(3) GW等の診療体制の周知

○ 令和7年度実績

ゴールデンウィーク、お盆及び年末年始における圏域の初期救急医療機関の診療体制の情報発信を行った。

○ 令和8年度以降の計画

長期休暇期間中においても、圏域住民が安心して医療機関を受診できるよう、情報発信を行う。

○ 連携による取組の成果

長期休暇期間中は休診となる医療機関が多く、緊急時に受診できる初期救急医療機関の情報について周知することで、圏域住民の安心につながる。

⑬ 初期救急医療提供体制維持・確保事業

(令和7年度決算額 60,068千円、令和8年度予算額 47,418千円)

○ 令和7年度実績

水戸市休日夜間緊急診療所への財政支援を実施し、休日や夜間における診療体制を維持することで、圏域住民が安心して、医療機関を受診できる医療提供体制を確保した。

○ 令和8年度以降の計画

水戸市休日夜間緊急診療所への財政支援を継続し、初期救急医療提供体制の維持・確保を図る。

○ 連携による取組の成果

圏域内で唯一、毎日の初期救急医療提供体制を維持するとともに、長期休暇期間中においては、地域の医療機関が休診することを踏まえ、診療体制を拡充することで、圏域住民の安心につながった。

⑭ 看護師等確保事業

(令和7年度決算額 299千円、令和8年度予算額 310千円)

(1) 茨城県看護協会の復職支援に関する事業の周知

○ 令和7年度実績

茨城県看護協会が実施する看護職再就業支援研修について、SNS等により周知した。

期日	場所	研修内容	参加者数
10月14日(火)～17日(金)	茨城県看護協会	講義研修	10人
10月25日(土)	茨城県看護協会	シミュレーション研修	8人

○ 令和 8 年度以降の計画

茨城県看護協会が実施する復職支援に関する事業等の周知に取り組む。

○ 連携による取組の成果

将来の看護師確保が期待できる。

(2) 看護職の養成や復職に向けた関係機関との連携的な取組

○ 令和 7 年度実績

- ・ 水戸市産業祭にて、茨城県看護協会のブースを出展し、看護を体験し、学べるイベント等を実施し、茨城県看護協会が行う各種事業や看護職の魅力の発信等に取り組んだ。
- ・ 水戸市医師会看護専門学院において、看護職に興味のある中高生や社会人向けに看護職の仕事を体験できるセミナー及び看護職向けに復職支援や実技のスキルアップを目的としたセミナーを開催した。また、将来、圏域内の医療機関等への勤務を希望する受験生を対象に、同学院が実施する特定市町村推薦入試について、募集を行った。

①看護職体験セミナー

期日：① 8 月 23 日（土）② 12 月 21 日（日）

場所：水戸市医師会看護専門学院

参加者数：① 14 人② 8 人

②水戸市医師会看護専門学院入試における特定市町村推薦

推薦人数：3 人

○ 令和 8 年度以降の計画

看護職確保のため、茨城県看護協会や水戸市医師会看護専門学院などと連携し、潜在看護師の復職を支援するとともに、広く一般の方を対象に、看護職を体験し、学べるイベントを実施する。

○ 連携による取組の成果

将来の看護職確保につながる。

⑮ 未来の医療人材育成事業

（令和 7 年度決算額 111 千円、令和 8 年度予算額 120 千円）

○ 令和 7 年度実績

医療への興味・関心を高め、未来の医療人材につなげていくことを目的に、水戸済生会総合病院において、小・中学生を対象とした病院体験ツアーを実施した。

期日：令和 8 年 3 月 7 日（土）

場所：水戸済生会総合病院

参加者数：小学生 9 人、中学生 12 人

○ 令和 8 年度以降の計画

小・中学生が実際の医療現場や医療の状況に触れ、職業としての医療への興味・関心を高める取組を実施する。

○ 連携による取組の成果

将来の医師や看護師等の確保が期待できる。

⑯ ICT を活用した健康づくり事業

(令和 7 年度決算額 580 千円、令和 8 年度予算額 829 千円)

(1) 茨城県央地域ウエルネス推進協議会の開催

○ 令和 7 年度実績

有識者の委員 18 名で構成する茨城県央地域ウエルネス推進協議会において、年度内に実施した社会実験の報告と今後行う社会実験の方向性について協議した。

○ 令和 8 年度以降の計画

茨城県央地域ウエルネス推進協議会を開催し、令和 7 年度に実施した社会実験の報告と、次年度以降の社会実験について協議する。あわせて、実装に向けての具体的な協議を進める。

(2) ICT を活用した健康づくりに係る社会実験の実施

○ 令和 7 年度実績

圏域において 2 件の社会実験に係る取組を行った。

【A I による歩行診断】

歩行中の姿勢・腕振り・足運びを A I で解析し、即時に結果をフィードバックした。また、参加者アンケートの結果、診断前には参加者の約 94% が歩行について改善の意識がなかったり、改善に向けた対応もしていなかったが、診断後は約 91% が改善の意識を持つようになったことがわかった。

市町村	期日	場所	参加者数
ひたちなか市	9 月 28 日 (日)	総合運動公園 1 階エントランス	254 人
水戸市	2 月 1 日 (日)	アダストリアみとアリーナロビー	246 人

【足の健康診断】

専門家による足の状態チェックとアドバイスを行った。また、参加者アンケートの結果、参加者の約 97% が「足に興味を持つきっかけとなった」と回答し、満足度が非常に高いことがわかった。

市町村	期日	場所	参加者数
水戸市	2 月 1 日 (日)	アダストリアみとアリーナロビー	89 人

○ 令和 8 年度以降の計画

新たに社会実験を実施し、今後実装する事業の検討を進める。



○ 連携による取組の成果

圏域全体で社会実験の参加者を募ることができるため、より多くのデータ取得が可能となり、圏域の健康課題や今後の方向性についての詳細な分析につなげることができる。

⑪ 成年後見制度利用促進事業

(令和 7 年度決算額 30,492 千円、令和 8 年度予算額 30,384 千円)

(1) 普及啓発（パンフレット等の作成・配布、学習会開催等）

○ 令和 7 年度実績

- ・ パンフレット 9,700 部及びリーフレット 9,850 部を作成し、連携市町村の窓口への配置、金融機関、医療機関等への配布を行った。
- ・ 権利擁護サポートセンターだよりの発行（2 回）や、各市町村発行の広報誌及び SNS、水戸市社会福祉協議会ホームページ等を活用した情報発信を行った。
- ・ 住民向け学習会及び専門職向け学習会を実施した。

【住民向け学習会】

市町村	期日	場所	参加者数
水戸市	10 月 27 日（月）	福祉ボランティア会館	43 人

【専門職向け学習会】

市町村	期日	場所	参加者数
水戸市	12 月 4 日（木）	福祉ボランティア会館	33 人
小美玉市	12 月 11 日（木）	四季健康館	36 人

○ 令和 8 年度以降の計画

圏域内イベントでのパンフレット等の配布及び学習会の開催等を通じて、成年後見制度の普及啓発活動を推進していく。

○ 連携による取組の成果

住民の成年後見制度への認識が高まり、利用者の増加が期待できる。

(2) 相談支援

○ 令和7年度実績

成年後見制度の利用に関する相談を行った（年 2,041 件のうち新規 124 件）。

○ 令和8年度以降の計画

権利擁護サポートセンターを中心とした地域ネットワークを生かした相談支援体制を維持していく。

○ 連携による取組の成果

成年後見制度の利用に関する相談を通じて、成年後見制度の利用者の増加が期待できる。

(3) 利用促進「受任候補者調整等の支援」

○ 令和7年度実績

被後見人の受任者候補マッチング会議を開催した（9回）。

○ 令和8年度以降の計画

上記取組を継続する。

○ 連携による取組の成果

マッチング会議を開催し、受任候補者調整の支援を行うことで、申請に応じた適切な受任候補者の選定につながった。

(4) 利用促進「市民後見人及び後見業務受託法人の育成・支援」

○ 令和7年度実績

- 市民後見人養成講座フォローアップ研修を実施した。

市町村	期日	場所	参加者数
水戸市	9月8日（月）	福祉ボランティア会館	30人
水戸市	3月2日（月）	福祉ボランティア会館	38人

- 市民後見人養成講座修了生が、生活支援員、後見支援員、成年後見サポーターとして活動したほか、地域ケア会議等にも参加した。

○ 令和8年度以降の計画

市民後見人及び法人後見受託法人の育成・支援を図り、成年後見人の成り手を拡充する。

○ 連携による取組の成果

市民後見人養成講座修了生のうち、18名が日常生活自立支援事業の生活支援員や法人後見事業の後見支援員として活動するなど、成果が出ている。

(5) 利用促進「法人後見の受任」

○ 令和 7 年度実績

各市町村の社会福祉協議会が法人後見を受任した。

受任件数：32 件（令和 8 年 3 月末現在）

（令和 7 年 4 月から令和 8 年 3 月までの新規受任件数：10 件、終了件数：6 件）

○ 令和 8 年度以降の計画

社会福祉士会等の専門職の抱える件数が増えているため、専門職団体と協議し、法人後見への受任移行を促進する。

○ 連携による取組の成果

法人後見として受任することにより、対象者に対する継続的な支援が期待できる。

(6) 利用促進「市町村実務担当者向け研修会開催等」

○ 令和 7 年度実績

成年後見制度の申立てに係る研修会を開催した。

期日	場所	参加者数
5 月 26 日（月）	水戸市福祉ボランティア会館	31 人

○ 令和 8 年度以降の計画

上記取組を継続する。

○ 連携による取組の成果

実務担当者の成年後見制度への理解の向上が期待できる。

(7) 親族後見人に対する相談支援等

○ 令和 7 年度実績

- ・ 親族後見人の相談支援を行った（20 件）。
- ・ 親族後見人向け相談会を実施した（圏域内 9 会場 14 人参加）。
- ・ 親族後見人向けチラシを作成、配布した。

○ 令和 8 年度以降の計画

親族後見人の相談会の実施、チラシの配布等による支援を継続する。

○ 連携による取組の成果

相談会を開催することにより、問題の改善が期待できる。

(8) 広域中核機関の共同設置・運営

○ 令和 7 年度実績

- ・ 広域中核機関である水戸市及び水戸市社協において、地域連携ネットワーク協議会の運営、各市町村中核機関との連携、支援を行った。
- ・ 圏域市町村による成年後見制度担当部署会議を開催した。

○ 令和 8 年度以降の計画

上記取組を継続、推進する。

○ 連携による取組の成果

市町村の担当部署がそれぞれの取組状況等について情報を共有することにより、成年後見制度の更なる利用促進、高齢者等の権利擁護につながる。

⑱ 芸術・文化教育の推進事業

(令和7年度決算額 4,417千円、令和8年度予算額 5,712千円)

(1) 各市町村の芸術・文化イベント情報共有

○ 令和7年度実績

ポスター・チラシを各市町村へ配布し、情報共有を図った。

○ 令和8年度以降の計画

ポスター・チラシの送付、広報誌・SNSでの情報発信、ホームページへのイベント情報の掲載を行っていく。

○ 連携による取組の成果

各市町村との情報共有が円滑に行われ、イベントの認知度向上につながった。

(2) 水戸芸術館と連携した事業の実施

○ 令和7年度実績

令和7年度「子どものための音楽会」を実施した（参加児童数 2,899人）。

○ 令和8年度以降の計画

令和8年度「子どものための音楽会」を実施する。それ以降も事業を継続する。



○ 連携による取組の成果

圏域内の子どもたちに、音楽に親しむ機会を提供することができた。

⑱ プロスポーツ等による地域活性化事業

(令和 7 年度決算額 921 千円、令和 8 年度予算額 1,200 千円)

○ 令和 7 年度実績

第 4 回いばらき県央地域スポーツフェスティバルを開催した。

期日：9 月 21 日（日）

場所：タスパジャパンミートパーク（小美玉市玉里運動公園）

内容：プロスポーツチーム等による体験教室（5 種目 189 名参加）

サブコンテンツ（3 種目 279 名参加）

○ 令和 8 年度以降の計画

第 5 回いばらき県央地域スポーツフェスティバルを 10 月 4 日（日）に茨城町運動公園で開催予定



○ 連携による取組の成果

圏域に拠点を置くプロスポーツチームの認知向上及びスポーツを通じた圏域内の活性化につながっている。

⑳ 公の施設の広域利用促進事業

(令和 7 年度決算額 229 千円、令和 8 年度予算額 500 千円)

(1) いばらき県央地域ガイドホームページの運営

○ 令和 7 年度実績

住民へ周知するためのホームページを運営し、広域利用が可能な公共施設や県央地域の相互参加可能なイベント等の情報を掲載した。

○ 令和 8 年度以降の計画

- ・ ホームページによる情報発信を継続する。
- ・ 各市町村のホームページ内へのリンク設定や、ホームページの紹介記事を SNS 等で発信するなどの取組により、更なる周知を図る。

○ 連携による取組の成果

県央地域のみどころや公共施設の広域利用に関する情報を一元的に発信し、圏域全体の魅力発信と広域交流の促進を図った。

(2) 広域利用促進スタンプラリーの開催

○ 令和7年度実績

ガイドブックや広報誌、SNS等を通じて開催を周知し、7月から1月末日まで公の施設の広域利用促進スタンプラリーを実施した（応募者数：48名）。

○ 令和8年度以降の計画

上記取組を継続する。

○ 連携による取組の成果

圏域住民に対する各市町村の公の施設の周知及び利用機会の創出を図られた。

② 合同就職説明会・相談会開催事業

（令和7年度決算額 5,012千円、令和8年度予算額 5,505千円）

(1) オンライン合同企業説明会の開催

○ 令和7年度実績

オンライン合同就職説明会を開催し、県域内の93事業所、学生40名が参加した。

○ 令和8年度以降の計画

合同就職説明会を開催し、圏域の事業者と学生のマッチングを図り、UJIターンを促進する。

○ 連携による取組の成果

圏域の事業者と学生とが直接接触できる機会を設けることにより、圏域の求人と就職を支援することができた。

(2) いばらき県央地域企業紹介WEBサイトの運営

○ 令和7年度実績

特設WEBサイト「いばらき県央企業ガイド」において、県央地域の事業者情報を発信した。

【掲載企業数】96社（令和8年3月末現在）

○ 令和8年度以降の計画

掲載事業者の募集を継続するなど、「いばらき県央企業ガイド」を効果的に運用し、県央地域の事業者情報を発信することで、UJIターンを促進する。

○ 連携による取組の成果

県央地域の事業者情報をまとめて掲載することで、就職希望者に、より多くの選択肢を提供することができた。



②② 災害対策連携事業

(令和 7 年度決算額 0 千円、令和 8 年度予算額 0 千円)

○ 令和 7 年度実績

- ・ 休日・夜間を含む防災担当者名簿を共有した。
- ・ 物資・資機材の備蓄状況一覧を共有した。
- ・ 担当者連絡会議を実施した。

○ 令和 8 年度以降の計画

連絡体制の構築や情報共有を行い、災害時の迅速かつ円滑な相互応援体制づくりに努めるとともに、官学連携による情報交換等を行う。

○ 連携による取組の成果

災害時に備えた連絡体制の確認や、各市町村の備蓄状況等の相互把握を通じて、圏域の防災力の向上につながった。

②③ 温室効果ガス排出削減啓発事業

(令和 7 年度決算額 294 千円、令和 8 年度予算額 650 千円)

○ 令和 7 年度実績

10 月～11 月にかけて省エネ等に心がけた生活を実施し、電気量の削減に取り組む C

- 2 削減エコライフチャレンジを実施した。

○ 令和 8 年度以降の計画

開催時期を 11 月～12 月とし、同様の取組を実施する。

○ 連携による取組の成果

連携市町村で 1,156 世帯の参加があり、圏域住民の意識啓発を図ることができた。

②④ 環境啓発イベント相互参加促進事業

(令和 7 年度決算額 0 円、令和 8 年度予算額 200 千円)

(1) ガイドブック作成

○ 令和 7 年度実績

令和 6 年度に作成した「いばらき県央地域連携中枢都市圏環境活動ガイドブック」の配布を行った。

○ 令和 8 年度以降の計画

環境活動ガイドブックを隔年で作成し、配布する。

○ 連携による取組の成果

圏域市町村の情報を 1 つにまとめて発信することで、それぞれのイベント等への参加を促進することができた。

(2) ホームページ等による周知

○ 令和 7 年度実績

環境啓発イベント、環境保全活動、環境学習会等について、ホームページへの記事掲載により情報を広く発信した。

○ 令和 8 年度以降の計画

ホームページ等への記事掲載を継続する。

○ 連携による取組の成果

圏域市町村の情報を広く発信する事ができた。

(3) EARTH HOUR への参加

○ 令和 7 年度実績

連携中枢都市圏として、EARTH HOUR 2026 に参加した。

○ 令和 8 年度以降の計画

EARTH HOUR への参加を継続する。

○ 連携による取組の成果

EARTH HOUR への参加を通して、圏域全体の環境保全の意識啓発を図ることができた。

②⑤ 公共交通の維持・確保事業

(令和 7 年度決算額 20,354 千円、令和 8 年度予算額 22,455 千円)

(1) 地域公共交通の域外運行

○ 令和 7 年度実績

水戸市「水都（すいっと）タクシー」と那珂市「ひまわりタクシー」による 2 市間相互乗入を継続した。

○ 令和 8 年度以降の計画

上記取組を継続する。

○ 連携による取組の成果

地域住民の利便性と暮らしの快適性の向上が図られた。

(2) 各市町村間の拠点を結ぶバス路線の維持・拡充

○ 令和 7 年度実績

- ・ 水戸市と城里町を結ぶ路線バス「石塚・赤塚線」の運行を支援した。
- ・ 水戸市と城里町を結ぶ路線バス「石塚・内原線」の運行を支援した。

○ 令和 8 年度以降の計画

「石塚・赤塚線」及び「石塚・内原線」の運行継続

○ 連携による取組の成果

地域住民の移動手段を確保した。

② 移住・定住促進事業

（令和 7 年度決算額 9,127 千円、令和 8 年度予算額 10,000 千円）

(1) 移住先の選択肢の一つとして圏域の情報を多くの対象者にPRする広報事業

○ 令和 8 年度以降の計画

令和 8 年度については、具体的取組⑥「プッシュ型 PR・都内イベント開催事業」として、民間事業者の集客力やノウハウを活用し、都内において圏域の暮らしの PR や各市町村への移住相談等が可能なイベントを開催するとともに、イベントと連動した圏域の移住促進 PR を実施することで都内の移住検討者との接点の増加を目指す。

令和 9 年度以降の方針については、構成市町村と協議の上決定していく。

(2) 魅力ある圏域の暮らしを分かりやすく伝える媒体制作事業

○ 令和 7 年度実績

- ・ 移住 HP 「#いばらきどまんなかライフ」運用・保守管理及び新規カテゴリページ「STORY」制作

【移住 HP】

閲覧数：8,589 PV（計測期間：令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 31 日）

- ・ 移住パンフレット「いばらきの真ん中でばら色 Life」改訂・増刷（増刷数：1,000 部）

○ 令和 8 年度以降の計画

令和 8 年度については、移住検討者が自ら情報を取得できる環境を整える「プル型 PR 事業」として位置づけて事業を実施する。移住・定住に係る情報発信の基盤として、県央地域の暮らしの情報はじめ、各市町村の移住関係情報や協議会のイベント情報等の発信を実施するため、「#いばらきどまんなかライフ」を運用することとし、保守管理に必要な業務を事業者へ委託する。

○ 連携による取組の成果

圏域の移住・定住促進に係る情報発信の基盤として移住検討者に情報を届けることができた。

(3) 圏域に興味を持った方が参加できる移住体験事業

○ 令和 8 年度以降の計画

移住促進事業については、移住フェアへの出展など、都内在住者との接点の増加を目指した事業を中心に取り組む方針としたことから、移住体験事業は実施しない。令和 9 年度以降の方針については、構成市町村と協議の上決定していく。

(4) 移住フェア等への合同出展による移住相談事業

○ 令和 7 年度実績

「第 21 回ふるさと回帰フェア 2025」に出展した。

【第 21 回ふるさと回帰フェア 2025】

期日：9 月 20 日（土）・21 日（日）

場所：東京国際フォーラム

移住相談延べ件数：85 組 139 名

○ 令和 8 年度以降の計画

移住確度が高い来場者が多いことが見込まれる「ふるさと回帰フェア」に出展する。また、令和 7 年度は 2 日間の開催日程のうち、各市町村（水戸市を除く）いずれか 1 日の出展としていたが、本事業の規模を拡大（出展ブースを倍増）し、9 市町村ともに 2 日間出展することとする。

あわせて、令和 8 年度から新たに「テーマから探す！移住フェア」（開催日程：令和 8 年 7 月 4 日）への出展を行い、主に都内在住の移住検討者との接点の増加を目指す。

令和 9 年度以降の方針については、構成市町村と協議の上決定していく。

○ 連携による取組の成果

令和 5 年度に定めた「シームレスな一体の生活圏」という圏域ならではのコンセプトを活用しつつ、多様な特徴をもつ構成市町村が共同で出展したため、様々なニーズに対応して移住相談を受け付けることができた。

(5) いばらき県央学生定住・UJ ターン促進プロジェクト

○ 令和 7 年度実績

- ・ 「さがすいばらき YouTube チャンネル」における動画コンテンツ配信

配信動画数：22 本（うちロング動画 8 本、ショート動画 14 本）

動画総再生回数：19,877 回（令和 8 年 5 月 8 日時点）

チャンネル登録者数：91 人（令和 8 年 5 月 8 日時点）

- ・ 「さがすいばらき YouTube チャンネル」動画出演者との交流イベント

①令和 8 年 3 月 6 日（金） さがす いばらき in 水戸（参加者数：6 名）

②令和 8 年 3 月 8 日（日） さがす いばらき in 有楽町（参加者数：8 名）

- ・ 茨城大学地域未来共創学環における圏域の暮らしの魅力を伝える授業外学修

開催日程：令和 7 年 7 月 10 日（木）

参加学生数：9 名（1・2 年生）

- ・ 「いばらき県央マッチング JOB フェア」出展

開催日程：令和 8 年 3 月 6 日（金）・7 日（土）

参加企業数：79 社（6 日）、41 社（7 日）

参加者数：27 名（6 日）、16 名（7 日）

○ 令和 8 年度以降の計画

令和 8 年の定住促進事業については、各構成市町村ごとの取組を基本とし、協議会としては実施しない。

令和 9 年度以降の方針については、構成市町村と協議の上決定していく。

(6) プッシュ型 P R・都内イベント開催事業

○ 令和 8 年度以降の計画

令和 8 年度については、民間事業者の集客力やノウハウを活用し、都内において圏域の暮らしの P R や各市町村への移住相談等が可能なイベントを開催するとともに、イベントと連動した圏域の移住促進 P R を実施することで都内の移住検討者との接点の増加を目指す。主な内容や開催場所等については、公募型プロポーザルにより民間事業者からの提案を募るものとし、今後の効率的な事業運営に向け、試験的に複数の形態の事業を実施するため、公募型プロポーザルでは 2 者を選定することとする。

令和 9 年度以降の方針については、構成市町村と協議の上決定していく。

(7) 都内移住セミナー等開催による移住相談事業

○ 令和 8 年度以降の計画

令和 8 年度については、ふるさと回帰支援センターと連携し、都内においていばらき県央地域の暮らしの P R 及び各市町村への移住相談が可能なイベントを開催する。

令和 9 年度以降の方針については、構成市町村と協議の上決定していく。

②⑦ 地域おこし協力隊活動の活性化と広域展開事業

（令和 7 年度決算額 385 千円、令和 8 年度予算額 400 千円）

○ 令和7年度実績

9市町村担当者会議及び地域おこし協力隊交流会・意見交換会を開催した。

○ 令和8年度以降の計画

地域おこし協力隊交流会・意見交換会を開催する。

○ 連携による取組の成果

隊員が、地域活動のヒントや課題解決の糸口を得ることができ、地域おこし活動の活性化につながる。

⑳ 婚活支援事業

(令和7年度決算額 1,992千円、令和8年度予算額 2,000千円)

○ 令和7年度実績

交流型（対面方式）のマッチングイベントを開催した。

① B B Qで楽しむ！縁結びツアー in 茨城町

期日：10月25日（土）

場所：ポケットファームどきどき茨城町店

参加者数：男性19人、女性16人【マッチング者数：8人】

内容：1対1のトークタイム、バーベキュー等をとおして、参加者同士の交流を行った。

② 謎から始まる恋の予感！縁結びツアー in 茨城空港

期日：12月14日（日）

場所：茨城空港

参加者数：男性19人、女性18人【マッチング者数：14人】

内容：1対1のトークタイム、謎解きゲーム等をとおして、参加者同士の交流を行った。

③ この春、恋を咲かせる 縁結びツアー in 水戸

期日：2月15日（日）

場所：ホテル テラス ザ ガーデン水戸、偕楽園等

参加者数：男性20人、女性20人【マッチング者数16人】

内容：1対1のトークタイム、偕楽園散策や提灯型ウッドチャームづくり等をとおして、参加者同士の交流を行った。

○ 令和8年度以降の計画

構成市町村を会場とした交流型マッチングイベントを各年度3回開催する（令和8年度 水戸市、大洗町、城里町）。

○ 連携による取組の成果

38人（令和7年度実績）がマッチングしており、結婚を希望する方の出会いの機会となった。

② 職員人材育成事業

(令和 7 年度決算額 220 千円、令和 8 年度予算額 400 千円)

(1) 合同研修の開催

○ 令和 7 年度実績

伝わるデザイン講座を実施した。

期日：7 月 9 日（水）

場所：水戸市

参加者数：75 名（9 市町村計）

○ 令和 8 年度以降の計画

生成 AI 活用研修を実施予定

○ 連携による取組の成果

様々な研修を受講することにより、職員の能力が向上し、行政課題の解決につながる。

(2) 研修の相互参加

○ 令和 7 年度実績

研修の相互参加を実施した。

期日	場所	研修内容	他市町村の参加
11 月 18 日（火）	水戸市	実務能力研修「政策形成研修」	10 名
11 月 19 日（水）	水戸市	実務能力研修「リスクマネジメント研修」	
12 月 16 日（火）	水戸市	接遇能力向上研修	4 名
1 月 27 日（火）	水戸市	民法基礎研修	22 名
2 月 18 日（水）	水戸市	60 歳職員キャリアデザイン研修	4 名

○ 令和 8 年度以降の計画

水戸市主催では実務能力向上研修、接遇能力向上研修、行政法研修、60 歳職員キャリアデザイン研修を実施予定。次年度以降も同様の研修を検討していく。

○ 連携による取組の成果

様々な研修を受講することにより、職員の能力が向上し、行政課題の解決につながる。

③ SDGs の取組に係る連携事業

(令和 7 年度決算額 884 千円、令和 8 年度予算額 1,000 千円)

(1) 小・中学生等を対象とした SDGs 学習会

○ 令和 7 年度実績

構成市町村の小・中学生のSDGsに対する理解促進を図るため、Pepperを活用しながら、各学校の授業やイベントにおいてSDGsの普及啓発に取り組んだ。

年間活用件数：62件

延べ参加者数：3,022人

○ 令和8年度以降の計画

Pepperの積極的な活用を通じたSDGsの普及啓発に取り組む。

令和9年度以降においては、小・中学生を対象としたPepperを活用したSDGsの普及啓発をある程度達成することができたと考え、本取組は実施しない。

○ 連携による取組の成果

構成市長村の小・中学校で広く活用することで、広域的にSDGsの普及啓発を展開することができた。

(2) 市町村職員等を対象としたSDGs研修会の開催

○ 令和8年度以降の計画

構成市町村の職員を対象としたSDGs研修会については、令和5年度まで取り組んできたことにより、各職員等の知見が深まり、SDGsの推進に向けた基盤づくりができたものと捉え、令和6年度以降は実施しない。

(3) SDGsに関する普及啓発活動の推進

○ 令和7年度実績

- ・ 構成市町村が実施するイベントにおいて、SDGsブースを出展した。

期日	イベント名	参加者数
6月29日（日）	ひぬまあじさいまつり	456名
10月26日（日）	ホロルのたまご～しろさと町民まつり～	452名
3月1日（日）	大洗町生涯学習フェスティバル	118名

- ・ 圏域の小学生のこどもたちとその保護者を対象に、SDGsについての理解を深め、家庭内での取組を促すため、楽しみながら学ぶことのできる「笑って学ぶSDGs」親子教室を開催した（7月27日（日））。

時間	場所	参加者数
午前	ひたちなか市子育て支援・多世代交流施設	14組 29名
午後	那珂市中央公民館	13組 28名

○ 令和8年度以降の計画

構成市町村が実施するイベントにおけるSDGsブースの出展及び親子教室の実施により、広くSDGsの普及啓発を図る。

令和9年度以降については、構成市町村の意向を踏まえて、計画を策定する。

○ 連携による取組の成果

圏域内の住民を対象に、SDGsの理念や17ゴール等について楽しく学びを深めてもらうことができた。

※ ビジョンにおける「Ⅲ 生活環境の充実」の成果指標

		ビジョン策定時点 の直近の値	2025(R7)年度末 時点の直近の値	目標値
医師数(別掲)	時点(年)	2018(H30)	2024(R6)	2026(R8)
	値(人)	1,385	1,497	1,470
看護職数	時点(年)	2018(H30)	2024(R6)	2026(R8)
	値(人)	8,601	9,466	8,900
健康づくりに係る社会実験の取組件 数(累計)	時点(年度)	2021(R3)	2025(R7)	2026(R8)
	値(件)	－	5	2
養成講座を修了した成年後見従事 者数	時点(年度)	2020(R2)	2025(R7)	2026(R8)
	値(人)	12	18	21
公の施設の広域利用者数(居住市 町村施設利用者数を除く。)	時点(年度)	2020(R2)	2025(R7)	2026(R8)
	値(人)	193,699	374,493	270,000
合同就職説明会・相談会参加事業 所数	時点(年度)	2021(R3)	2025(R7)	2026(R8)
	値(事業所)	－	93	40
取組を実施する住民1人当たりの電 力使用による二酸化炭素排出量(奇 数年)	時点	2019(R1)年 11 月	2025(R7)年 11 月	2025(R7)年 11 月
	値	51.7kg-CO2	49.4kg-CO2 (4.4%減)	8%削減
取組を実施する住民1人当たりの電 力使用による二酸化炭素排出量(偶 数年)	時点	2020(R2)年 12 月	2024(R6)年 12 月	2026(R8)年 12 月
	値	63.9kg-CO2	55.6kg-CO2 (13.0%減)	8%削減
水戸市を經由する路線バスの1日当 たりの利用者数	時点(年度)	2020(R2)	2025(R7)	2026(R8)
	値(人)	29,862	24,288	35,000
移住・定住に係る市町村への相談件 数	時点(年度)	2020(R2)	2025(R7)	2026(R8)
	値(件)	330	588	600
研修参加者数(合同研修及び相互 参加に限る。)(累計)	時点(年度)	2021(R3)	2025(R7)	2026(R8)
	値(人)	－	451	350
SDGs普及啓発事業への参加者数 (累計)	時点(年度)	2021(R3)	2025(R7)	2026(R8)
	値(人)	－	3,879	1,000